
「平成24年度 大学院授業アンケート」調査結果

平成24年11月7日～12月7日（延長21日）の期間、授業の改善に役立てることを目的に大学院教育学研究科授業アンケートを実施しました。以下では、設問順に結果をお知らせします。

質問1. 所属専修をご記入ください

提出者数（所属院生数）で表すと、学校教育専修：13(44)、障害児教育専修4(13)、国語教育専修：4(7)、社会教育専修：0(12)、数学教育専修：8(13)、理科教育専修：16(26)、音楽教育専修：7(8)、美術教育専修：2(15)、保健体育教育専修：1(10)、技術教育専修：5(9)、家政教育専修：3(4)、英語教育専修：10(10)となり、全体では73(171)で42.7%の回収率でした。なお、昨年度は32.7%の回収率でした。

質問2(a). 教育学研究科の授業内容は、全体として、あなたの期待に応えるものでしたか

「期待以上」は18人、「期待どおり」は49人、「期待はずれ」は4人、「その他」（未受講など）は3人でした。「期待以上」と「期待どおり」で91.8%を占めています。

質問2(b). 「実践特別演習」は、あなたの期待に応えるものでしたか

「期待以上」は14人、「期待どおり」は51人、「期待はずれ」は2人、「その他」は6人でした。「期待以上」と「期待通り」で89.0%を占めています。「その他」としては、「講義によって差があった」「現職教員を含めた形での内容検討が必要」「期待以上ではあるが少し不満もある」などの記述がありました。

質問2(c). 「教科内容論」は、あなたの期待に応えるものでしたか

「期待以上」は21人、「期待どおり」は44人、「期待はずれ」は2人、「その他」は5人でした。「期待以上」と「期待通り」で89.0%を占めています。「その他」としては、「履修していない」などの記述がありました。

質問2(d). 「学校教育実践総論」は、あなたの期待に応えるものでしたか

「期待以上」は14人、「期待どおり」は43人、「期待はずれ」は7人、「その他」は9人でした。「期待以上」と「期待通り」で78.1%を占めています。「その他」としては、「講義によって差があった」「どちらともいえない」「未受講」などの記述がありました。

質問3. 期待どおり・期待以上の科目の理由（どういふ点がよかつたのか）

主な意見としては、次のようなものがありました。

研究の魅力

「深い学びと広い視野を得ることができた」
「研究とはどういったものか具体的にイメージできるようになった」
「学ぶこと・研究することへの示唆に富んでいる。とても楽しい（忙しくはあるが）」
「知らないことを知れるのは楽しいから」
「新しい視点・価値観を与えてくれる」
「自分が学びたい内容を多彩な先生方がそれぞれの視点から教えてくださるから」

教員の専門性

「先生方の専門性が授業のなかで生きている印象のあるものがあった」
「先生の研究実績から多くを学ばせていただける」
「いろいろな実践や経験談を聞かせていただき、その教科のもつ世界とはまた別の意味やおもしろさが発見でき、制作に対する意識も変わりました」

授業の形態

「特別演習などの授業では、自分からの自主学習を通して、資料を調べたり、論文をまとめたり、発表のかたちも含めて、自分の意見だけでなく、さまざまな意見や知識などが勉強になる」
「たくさんの文献を紹介していただき、発表の機会も多く、知識・実践ともに得るものが多かった」
「少人数であり、こちらのニーズに応じていただけた」
「受講生に合わせた指導をしてくださるため」「学生の質問に親身になって答えてくださる」
「グループ活動中心で、受講生の発表も多く、学びが深まるものであったから」
「受講生同士の議論が活発に行えた点」
「周り話し合いながらなど、まわりと情報共有ができ、興味・関心がひかれる内容が多かったから」

教育実践（学校現場）との関連

「実際に現場に入らせていただけるため、貴重な経験になった」「教育現場で役立つような内容」
「実際の授業を踏めた内容の講義が多く、自分の授業を考えるために役立つ」
「学校教員になったときに有効なスキルを得ることができた」
「方法論について、今後の参考になるような講義を受けることができたから」
「実践特別演習は、教育現場に即生かせるための基本的な理論を学ぶことができたから」
「他大学から入学したため、専門性と教育の両面を重視した授業内容に感嘆した」

質問4. 授業内容が期待にそぐわない場合の理由（どういふ点が期待通りではなかつたのか）

主な意見としては、質問3を裏返したような意見が見られました。「授業の形態」については、「人数が多すぎて学部の講義を受けているような感じだった」「90分講義の授業が多く、受講生同士で考えを深める機会もなかつたから」、また「教育実践との関連」については、「現場との結びつきがない」「座学による理論が多かつた」などの意見がありました。

ほかに、「シラバスで期待していた内容と違う内容をされていて少し残念だった」「どういった点が実践特別演習なのかよくわからない内容のものもあつた」「出席は関係ないので出なくてもよいということを言われモチベーションが下がつた」「学部生の頃と変わらない授業内容」「一気にいっぱい内容をつめた授業でしたので、知識の浅い私に難かつた」「内容論と特論との違いがわからない」などの意見もありました。

質問5(a). 何割くらいの授業が体系的で良くまとまっていたと思いますか

「ほとんどすべて」が13人、「約8割」が35人、「約半分」20人、「約2割」が1人、「ほとんどなかった」は0人、「その他」（登録していないなど）が3人、無回答1人でした。約8割以上の授業が体系的で良くまとまっていたと思う院生の割合は65.8%です。

質問5(b). 何割くらいの授業が分かりやすいと感じましたか

「ほとんどすべて」が18人、「約8割」が31人、「約半分」19人、「約2割」が0人、「ほとんどなかった」は0人、「その他」（登録していないなど）が3人、無回答2人でした。約8割以上の授業が分かりやすいと思う院生の割合は67.1%です。

質問5(c). 何割くらいの授業で、担当教員が受講生の理解や反応を受け止めながら授業を進めていたと思いますか

「ほとんどすべて」が22人、「約8割」が33人、「約半分」13人、「約2割」が1人、「ほとんどなかった」は0人、「その他」（登録していないなど）が2人、無回答2人でした。約8割以上の授業が受講生の反応を受け止めていると思う院生の割合は75.3%です。

質問5(d). 何割くらいの授業においてシラバスが参考になりましたか

「ほとんどすべて」が16人、「約8割」が23人、「約半分」23人、「約2割」が3人、「ほとんどなかった」は4人、「その他」（登録していないなど）が2人、無回答2人でした。約8割以上の授業でシラバスが参考になったと思う院生の割合は53.4%です。

質問5のなかでは、この項目（＝「シラバスが参考になったか」）についての肯定的な回答の割合がもっとも低くなっています。

質問6. 現職教員とストレートマスターとの合同授業で感じたこと（配慮して欲しいこと）があれば、記入してください。

主な意見として、「有意義な点」を指摘するものと「改善にむけて」の意見がありました。

有意義な点

「互いに知識と経験を補いあえてよい」

「現職教員の意見がとても参考になった」「現場の声が直に聞けてよかった」「現職教員の方からの経験にまつわる貴重な体験を聞いた」「学生にはない現職教員の価値観が確かにあると感ずることができた」「ストレートマスターと議論ができておもしろい」「ストレートマスターから刺激を受けた」

改善にむけて

- ・話し合いの機会…「意見交換ができる機会をできるだけ多くしていただきたいです」「現場の先生の話を知りたいのでペアワークやグループワークがある場合、バランスよく組んでいただきたい」
- ・開講時間…「現職教員がより利用しやすいように制度を整備してほしい」「受講できる時間帯に講座を開いてほしい」
- ・対応の仕方…「ある経験について行っていることを前提に話を進めるのはやめてほしい」「授業内容や課題については特に現職教員に合わせる必要はないと思います。ストレートマスターは大変かも知れませんが」「私は現職教員ですが、ストレートマスターと同じように対応していただけたらと思います」

質問7. 各自の「課題研究」（修士論文の執筆）に関して困っていることがあれば記入してください。

「論文の書き方」「時間の確保」などについて、次のような意見が出されました。

論文の書き方

- 「まず、論文という形式をとらえることが難しかった」
- 「論文の基本構成について例などがあれば助かります」
- 「学部 のとき にほとんど論文を読んだり書いたりする授業がなかったので、とても苦労しています」
- 「研究の方法がわからない」
- 「論文探しの方法がわからなかったり、先生のところに行って話をお聞きしたり、器具をお借りして研究することに少し勇気がいるので困っています。頑張ります」
- 「大学生対象の質問紙調査を行うのが困難」
- 「本論文と副論文はどのくらい関連していなければならないか」

図書

- 「図書館が利用しづらいです」
- 「研究室配置の資料が借りにくい」
- 「論文の量が図書室に少なすぎる」
- 「蔵書の量を改善してほしい」
- 「他大学から来たので図書館がもっと使いやすく、オリエンテーションや説明会などが別個あればよいなあとと思います」

時間の確保

- 「日々の授業の課題、まとめ発表等で思うように修士論文の準備が進まない」
- 「仕事をしながらなので、まとまった時間がとれないのがしんどい」
- 「現場復帰しての修士論文執筆は困難を極めていきます。現職教員が2年間大学院で学べる制度をご検討いただけたら幸いです」

印刷

- 「I P Cの印刷ポイント不足」

指導教員との関わり

- 「感情的にきつくあたられることがあり精神的にしんどかったです」

質問8. 「その他」の自由記述

その他の意見としては、上記で挙げた自由記述の意見が繰り返されるほか、次のような指摘もありました。

- 「前期に開講するか、後期に開講するか、見直した方がよい授業が多々ある」
- 「教科教育の専門に関する科目に、他分野の院生が選択すると、より深い専門性が追究できない。一定の制限が必要ではないか」
- 「院生室に共同でいいのでコピーカードがほしい。毎回先生にお借りするのは気が引ける」

以上の調査結果を、今後の授業改善に役立てていただけたら幸いです。

問い合わせなどは、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：安東（委員長）、山口（副委員長）、村田、内田、樋口
事務担当：高松、相原、大谷